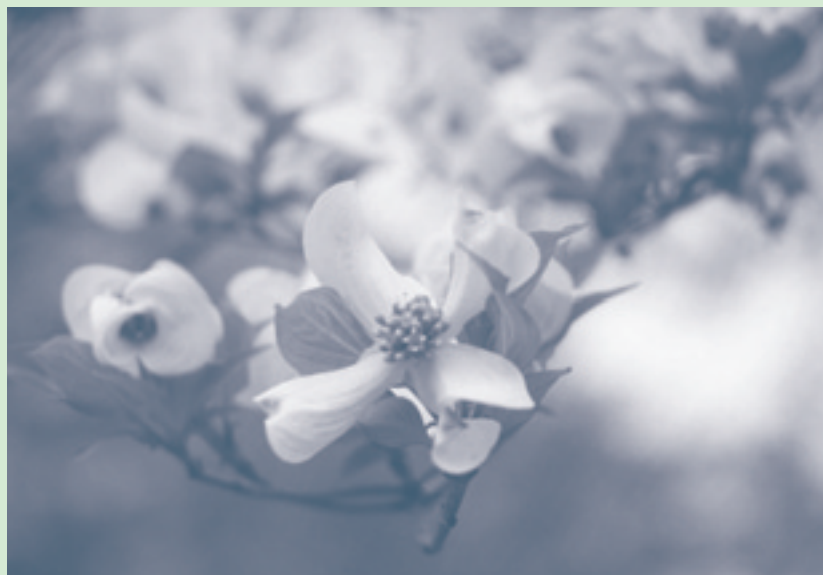


わたしの光のいえ”
ピースハウスふれんず”

September 2007

Issue Number 13



ごあいさつ	3
ピースハウスの役割	4
地域に暮らす人々を支える	5
ホスピス教育研究所の活動	10
ホスピスサポート活動	12
ピースハウス家族の会	12
入退院状況	13
ホスピスケアを受けるために	14
施設内容とスタッフ	15
寄付報告	15



シンボルツリー：花水木

ごあいさつ

ピースハウス病院は、2007年の秋に創立14周年を迎えます。これからは本年3月22日にピースハウス病院に接続して完成したデイケアセンターと訪問看護ステーションとの連携によって、入院ホスピスケアと在宅ホスピスケアとが有機的に提供できる本当の意味での全人的医療を行うことが可能になりました。さらにこれらに加えて、ピースハウス病院にはグループホームをつくる計画も許される十分な用地を擁していますので、今後のさらなる発展を視野に入れたホスピスケアの展開を図ることも可能と思われまます。

さて、日本では人生の最期を病院で迎える人が圧倒的に多いのですが、一般に欧米およびオーストラリアなどの先進国では、在宅ケアの充実によって自宅やグループホームでの看取りが主流になりつつあります。日本でももっと病む人のニーズに合わせた医療やケアを提供することができれば、癌に限らずすべてのターミナルにある人たちにとって、自分のもっとも望むケアを受けることができるはずです。

ピースハウス病院、同研究所、訪問看護ステーション中井そして新たに加わったピースデイケアセンターとが有機的に働くことによって、地域におけるホスピスケアの拠点としての役割を果たすとともに、これまでも増して日本のホスピスケアのモデルとなるよう、スタッフ一同最善を尽くしていきたいと思ひます。

皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

財団法人ライフ・プランニング・センター
理事長 日野原 重明

ピースハウスの役割

ピースハウスの理念

ピースハウスはやすらぎの家である。ここで時を共にする人は皆それぞれの生き方を尊重する。

基本方針

1. 痛みなどの心身を悩ます不快な症状が緩和され、患者と家族がその人らしく時を過ごすことができるように、患者と家族の希望する場において、全人的ホスピスケアを提供する。
2. 愛する人を失う悲しみや、その他の心身の反応は自然なことと考え、ケアを始めたときから死別後まで、患者の家族への支援を行う。
3. 患者と家族のニーズに応えるために、多職種の職員とボランティアでチームを構成し、互いに協力してケアを提供する。
4. 日本の実状に即したホスピスのモデルとなるように、より良いケアの実践、研究、教育を進める。

(1998年10月改定)

(2003年6月改訂)

ピースハウスのスタッフ、ボランティアは、日常性の維持をケアの大切な目標と考え、患者・家族を支える黒衣として、良い環境を提供し家庭的雰囲気醸成を工夫しながら、苦痛を緩和し、思いやりを届ける努力を続けています。2006年度には、多くのご支援をいただき、デイケアセンターを増築することができました。本当にありがとうございました。私たちはこの機会に更なる飛躍を成し遂げ、緩和ケア提供の形態や場、対象を増やすことを望んでいます。

良質の緩和ケアを普及させるには、直接的な関わりから間接的な関わりまで、いろいろな方法が考えられます。ピースハウスでの緩和ケア提供の場を入院、外来、在宅、そしてデイケアと広げていくのは直接的な方法ですが、当然利用者は限定されます。湘南西部および県西部という地域で、増えつつある緩和ケア提供事業体の連携、相互啓発を進めていくことも大切なことです。

日本の緩和ケア病棟は160施設3000床を越えました。がん診療拠点病院をはじめ多くの病院で緩和ケア診療チームが活動しています。在宅療養を増やすべく、2006年の診療報酬改定で在宅療養支援診療所の活動に対する優遇措置がとられました。それぞれの場で良質の緩和ケアを提供していくには、緩和ケアの基準や、質を保証するための評価指針を順次策定し、認定の仕組みを構築していく必要があります。それと並行して、医療・福祉関係者ならびに一般市民に向けて緩和ケアに関する啓発・教育を継続しなければなりません。そのためには、個々の施設における活動だけでなく、地域緩和ケアネットワークの構築、全国規模での運動や施策などが必要です。ホスピス緩和ケアに関しては、国や地域を越えた地球規模の動きも必要です。

私たちは、日本ホスピス緩和ケア協会ならびにアジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワークの一員として、このような活動にも積極的な関与を継続していきたいと考えています。そして、日本ホスピス緩和ケア協会の事務局を引き続き担当します。

院長 西立野 研二

地域に暮らす人々を支える

ピースハウスは神奈川県西部、足柄上郡中井町にあります。

この地との出会い、ピースハウスのこれまでの活動、そしてこれから私たちが目指す姿に触れてみたいと思います。



今から40年ほど前、七国峠の山道にさしかかった場所に農事センターがありました。日野原医師をリーダーとして畳敷きの広間を診療所とし、心電図やポータブルのレントゲン装置を備え、月に1度の定期的な診療を行っていました。

ピースハウスがこの地に建つことになる最初の活動でした。

峠を目指して上りつめると、丘の上に立つピースハウス、1993年9月に開院しました。ホール窓いっぱい、雪に覆われた富士、懐かしい思い出が蘇ってくる。

耐えられなかった痛みも和らぎ、久しぶりの笑顔、家族の表情にも安堵の様子が見られます。





ホスピスで最期の時を過ごされる方が多い中、「もう一度家に帰りたい」という願いを叶えるため、1997年に訪問看護ステーション中井が開設されました。

個人のお宅をお借りしてのスタートでした。

住み慣れたわが家で家族と共に過ごす。定期的に訪問してくれる先生と看護師さん。

穏やかな表情、いつもの父がそこにいる安心感。





ピースハウスの2階にはホスピス教育研究所。ここに2ヶ月に一度、医療福祉関係者が集まり、「地域緩和ケア研究会」が開かれています。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど、職種を超えて熱心な討論が夜遅くまで続きます。

がんの痛みや苦痛を緩和するケアは、ホスピスで始まるものではありません。最近では、多くの病院で治療とともに緩和ケアが受けられるようになりました。そこでは医師、看護師、薬剤師など緩和ケアの専門家がチームとなって、病院の各病棟を回ってアドバイスします。



写真提供：東海大学医学部附属病院緩和ケアチーム

モルヒネを使うことに抵抗を持つ方がおられるかもしれません。専門家から直接説明を受けることで理解が深まります。



治療を終えて退院する日が近づいてきます。病気をもちながらも安心して在宅で過ごせるように「地域連携室」で相談。痛みが強い時にはホスピス外来を受診する方法もある。ホスピスの相談室とも連絡をとる。



在宅療養を支援してくれる診療所の医師、訪問看護ステーションの看護師、ホームヘルパーなど、いろいろな人が在宅療養を支えてくれます。必要な時はいつでもホスピスへ入院できる。
家での療養を支えてくれる体制が心強い。

家で過ごす安心。
外に出てみたい時がある。
家族が少し休息したい時もある。
そんなとき、デイケアセンターで一日を過ごす。



最期はホスピスで、と考えていましたが、このまま家で、皆でお世話を続けられそうです。
住み慣れた家で皆に囲まれて……。

大切な人を亡くして、悲しみが癒えることはない。
久しぶりに訪問看護師が訪ねて、思い出を語り合う
静かな時間が流れます。残されたご家族をあたたく見守る。



地域で暮らす人々を支えるケアのネットワークは、治療中から、亡くなった後まで続きます。

ホスピスのホールでは、久しぶりに訪れたご家族と共に故人をしのびます。

2006年度ホスピス教育研究所の活動

ピースハウスの2階に位置するホスピス教育研究所は、神奈川県をはじめ全国に向けてのホスピス緩和ケアに関する教育啓蒙活動、院内スタッフ・ボランティアの教育、さらに、国内外の他施設・団体とのネットワーク作りなどを主な業務としています。

また「日本ホスピス緩和ケア協会」の事務局として、年次大会・理事会・総会・専門委員会などの開催、全国の現状調査、ニュースレターの発行など、協会事務局の業務も並行して行っています。

ホスピス教育研究所所長 松島 たつ子

1. ターミナルケア人材育成講座の開催

講座名	期日	日数	講師(所属)	参加人数
ホスピス緩和ケア講座	2006年9月～10月	3	西立野研二(ピースハウス病院院長)木澤義之(筑波大学大学院講師)他8名	延115
ホスピスセミナー 癌治療の現状と緩和ケアの実際	2006年5月	1	向山雄人(癌研有明病院緩和ケア科部長)	84
ホスピスセミナー 患者の意思決定とその支援	2006年7月	1	栗原幸江(静岡がんセンター緩和医療科心理療法士)	102
ホスピスセミナー がん患者の精神症状への対応	2006年2月	1	秋月伸哉(国立がんセンター東病院精神腫瘍学開発部室長)	57
ホスピスワークショップ 看護と倫理	2006年11月	1	成澤光(国際基督教大学教養学部社会科学科客員教授)	44
ボランティア養成講座 春期講座 秋期講座	2006年4月～7月 2006年10月～12月	6 6	志村靖雄(ピースハウス病院ボランティアコーディネーター)他7名	延83 延41
ボランティア・アドバンス講座	2006年4月～2007年3月	5	アルフォンス・デーケン(上智大学名誉教授)常盤欽二・岡田美幸(ピースハウス病院ボランティア)他8名	延213
ホスピス公開セミナー	2006年4月～2007年3月	11	瀬戸ひとみ(ピースハウス病院看護師)	延219

2. 第14回ホスピス国際ワークショップの開催

開催日: 2007年2月3日(土)～4日(日)

開催場所: ホスピス教育研究所

テーマ: エンドオブライフケアと尊厳

講師: Professor Harvey Max Chochinov OM
MD PhD FRCPC
Canada Research Chair in Palliative
Care Director, Manitoba Palliative
Care Research Unit Professor,

Department of Psychiatry,
University of Manitoba, CANADA
Ms. Jill Taylor-Brown, M.S.W., R.S.W.
Director, Patient and Family
Support Services, Cancer Care
Manitoba, CANADA



Chochinov (左), Taylor-Brown (右) 両講師

3. 研修生の受け入れ

- 1) 医師のためのホスピス研修 (計2名)
平塚市民病院 (2)
- 2) ナースのためのホスピス研修 (計48名)
日本看護協会「緩和ケアナース養成研修」(12)
日本看護協会「認定看護師教育専門課程ホスピスケア学科臨床実習」(2)
その他 (34名)
神奈川県看護協会「ホスピスケア認定看護師教育課程」(32)
福澤クリニック (2)

- 3) 医学生のためのホスピス研修 (計10名)
東海大学医学部 (10)
- 4) 看護学生のためのホスピス研修 (計4名)
慶應義塾大学看護医療学部 (2), 筑波大学医学専門学群看護・医療科学類 (2)
- 5) ホスピス体験学習 (計12名)
県立秦野曾屋高等学校 (1), 県立七里ヶ浜高等学校 (5), 県立大清水高等学校 (1), 県立秦野曾屋高等学校教諭 (1), 横浜市立大学医学部 (1), ルーテル学院大学 (2), 聖路加看護大学 (1)

4. ピースハウス見学者への対応 52件 318名

主な見学団体

日本歯科大学病院, 神山復生病院, 河北総合病院, 救世軍清瀬病院, 岐阜中央病院, 聖母病院, 岩手県立磐井病院, 東京大学健康科学教室, お茶の水女子大学大学院, 埼玉県立大学保健医療福祉学部, 聖マリアンナ医科大学, サバ神学校, 防衛庁幕統合監部国際協力部, 神奈川県県会議員, 神奈川新聞社, NHK文化福祉番組, 神奈川県医療社会事業協会, 大磯町民生委員, 日本福音ルーテル東京池袋教会, テルモ株式会社, 韓国保健福祉管理癌管理課, 香港社会福祉協議会, 国立台湾大学 他

5. 事例検討会

期 間 2006年4月～2007年3月 (10回)

主なテーマ

- ・ 終末期における患者の意志の尊重とは
- ・ 終末期がん患者における「せん妄」をめぐる
- 家族と医療者の受け止め方 -
- ・ 癌の治療と緩和ケア
- 緩和ケア提供形態の広がりとの連携 -
- ・ 『本当に退院するの?』
- 在宅希望の実現の可能性について
- ・ 治療継続を願う患者の心理の理解とケア
- ・ 在宅での看取りを振り返る
- 「間に合わなかった吸引器が…」と言われたケースについて
- ・ 認知症患者の家族への関わり方を振り返る

延参加人数 229名

6. ホスピスケア研究会 (金曜会)

期 間 2006年4月～2007年3月 (5回)

主なテーマ

- ・ 自分らしさの尊重とは
- ・ 『恥ずかしい』ということ
- ・ 家族とは
- ・ こころの不思議
- ・ 音楽は楽し

延参加人数 61名

7. Study Day 症状マネジメントを学ぶ

期 間 2006年4月～2007年3月 (5回)

主なテーマ

- ・ 摂食・嚥下障害
- ・ リンパ浮腫 リンパの流れとマッサージ
- ・ 症状マネジメントへの統合的アプローチ
- ・ 患者とのコミュニケーションの実際

延参加人数 74名

8. 地域緩和ケア研究会

期 間 2006年4月～2007年3月 (5回)

主なテーマ

- ・ ピースハウス病院利用者の現状と課題
- ・ 小田原市立病院における緩和ケアチームの活動
- ・ 大学病院の緩和ケアチームと病病・病診連携のこれから
- ・ 県立足柄上病院における緩和ケアの実際
- ・ 東海大学大磯病院における緩和ケアの実際
- 緩和ケア活動会の取り組みについて -
- ・ 秦野赤十字病院における緩和ケアの実際
- 疼痛コントロールに苦慮した末期胃癌の一例 -
- ・ クリニックの活動報告
- 在宅医療への取り組み -
- ・ 地域医療連携について考える
- 在宅療養支援診療所との連携 -

延参加人数 310名

9. 研究所会員制度

(図書貸出, 文献利用サービスなど)

会員数 28名

(医師6, 看護師11, 看護教員2, 研究職1, 生活指導員1, 音楽療法士1, カウンセラー1, ボランティア1, 栄養士1, ソーシャルワーカー1 他2)

10. 機関紙の発行

ピースハウス活動報告 (ふれんず Issue No.12)

5,000部

ホスピスサポート活動

ピースハウスをサポートしている中心メンバーは、勿論ここを活動拠点にしている100名近いボランティアですが、2006年度も外部にあってここをご支援してくださる沢山のチームにお力添えをいただきました。その活動をご紹介します。

・LPC ホスピスサポートチーム

開院以来連続と続けられてきた財団有志の支援活動。コンサート、講演会、ミニバザー、書籍販売などの収益金でシャトルバスの購入から運行まで、文字通りピースハウスへの足を支えています。

・姫由美子と素敵な仲間たち

例年のごとく5月に鶴見会館でテンドーラブコンサート（チャリティコンサート）とバザーを開催、売り上げをご寄付いただきました。

・第10回夢コンサート

6月、N響チェロ奏者 故徳永健一郎さんを偲ぶ方々が例年どおり松本記念ホールで開催、今回はチェロとピアノの演奏を楽しみました。

・府中はなみずき

地域の有志が、バザー、手作り介護用品の提供などを通じ長年にわたりご支援くださっています。ピースハウスの美容室もこのグループに支えられています。

・B・Bサンタクロース事務局による日本プロ野球選手会のチャリティ

第19回チャリティゴルフ会の収益金をご寄付いただきました。

・クリスマスイベント

テルモ(株)湘南センターから送られてくるクリスマスイルミネーションと花火、中井町友愛キリスト教会メンバーのよるクリスマスキャロルは恒例の楽しい行事です。

・ティータイムコンサート

フランスの名誉ある「プロムジシス賞」を授賞した瀬尾和紀さんのフルート演奏（5月）、田端典子さんの童謡と日本歌曲（11月）、森若里子さんの演歌（1月）など3回にわたって行われました。ピースハウスをご支援下さるチームや個人のご寄付や会費は、2006年度一年間で総額1,500万円を超え、ここで行われるボランティア活動と共に人生の終わりをその人らしく迎えようとしておられる方々に向き合う職員やボランティアの大きな支えになっております。

ピースハウスボランティアコーディネーター

志村 靖雄

ピースハウス 家族の会

ピースハウス家族の会は、ピースハウスにてケアを受け、旅立っていかれたかたのご家族のあつまりとして、1997年に発足しました。年2回の定期懇親会・月毎の小さな集まり“ぶらっとスポット”・季刊発行の会報“悠友”が会員同士をつなげています。会員からの一言メッセージをご紹介します。

「家族の会 初参加です。夫を見送り2年、私と同じ心境の方との語らい、楽しかったです。ヴァイオリンとヴィオラの演奏、素晴らしかったです。音楽に元気をもらいました。是非、又お願いします」
春の懇親会アンケートより

「小田原散策、楽しい1日となりました。ありがとうございました。懇親会や散策に参加できる方は、たぶん恵まれているのかもしれないと思いました。本当に手をさしのべなければいけない方々には、手が届かないのかなあ～！なんて、ふと思いました。散る桜、残る桜も散る桜・心に残りそうな今日のサクラです」

“野外ぶらっとスポット”参加者からのお便り

「娘が亡くなって早、7回忌。心はまだ病んでおります。悠友の文を読んで少し心が癒されました。同

じょうな気持ちで日々を過ごされておられるのですね。私も人生の終点に向かってあるきたいです。でも、なかなか現実には厳しいです。脱皮出来る事を願っております。悠友を送って頂き感謝しております」
懇親会欠席の方の返信ハガキより

家族の会発足からこの秋で丸10年、この間、入会された方は、360名、現会員数は195名です。会報“悠友”は、会員同士をつなぐ大切な橋となっていますが、懇親会やぶらっとスポットに参加できる方は限られています。会員が参加しやすいプログラムの企画など、次の10年に向けて、家族の会のあり方を再検討しているこの頃です。

ピースハウス家族の会 会長 増淵 志計男



入退院状況 (2006年4月～2007年3月)

2006年度の入院患者は189名、延べ193名で、前年度に比べ9%増えた。性別では、男女が伯仲している。平均年齢は70.0歳と年々上昇傾向にある。平均在院日数は約27日で前年度と大差ない。ほぼ70%が4週間以内の入院であり、その中でも1週間以内が最も多い。原発疾患については、最近の例に漏れず肺癌が多かった。患者住所は90%が神奈川県、そのうちの63%が湘南西部と県西部であった。紹介元の医療機関については、東海大学医学部付属病院及び同大磯病院からのものが合わせて67件と全体の35%を越えている。その他の医療機関についても紹介患者数が複数になったところが増えた。相互の連携が向上したことにもよるであろう。

入退院状況 (2006年4月～2007年3月)

- (1) 入院患者数 189名 延べ193名
- (2) 男女別 男91名 女98名
- (3) 平均年齢 70.0歳
- (4) 平均在院日数 27.2日
- (5) 原発疾患

肺癌	43	胃癌	24	結腸癌	22
膵癌	12	直腸癌	9	乳癌	8
子宮癌	8	肝癌	7	咽頭癌	6
卵巣癌	5	食道癌	5	副鼻腔癌	4
胆管癌	4	前立腺癌	4	喉頭癌	3
唾液腺癌	3	腎癌	3	口腔癌(舌、歯肉など)	3
胸膜中皮腫	3	膀胱癌	2	胆のう癌	2
脳腫瘍	2	甲状腺癌	2	その他	8

(6) 患者住所分布

神奈川県	170	東京都	10	千葉県	2
愛知県	2	埼玉県	1	群馬県	1
静岡県	1	山梨県	1	茨城県	1
長野県	1				

(7) 神奈川県の内訳

平塚市	38	小田原市	19	秦野市	17
中郡	14	横浜市	11	伊勢原市	10
海老名市	9	相模原市	8	藤沢市	7
厚木市	6	足柄上郡	6	川崎市	4
鎌倉市	4	座間市	3	茅ヶ崎市	3
南足柄市	3	逗子市	2	横須賀市	1
大和市	1	綾瀬市	1	津久井郡	1

(8) 紹介病院一覧

東海大学医学部付属病院	54
東海大学医学部付属大磯病院	13
平塚共済病院	9
平塚市民病院	8
小田原市立病院	6
秦野赤十字病院	5
神奈川病院	5
藤沢市民病院	5
北里大学病院	4
小澤病院	4
海老名総合病院	4
丹羽病院	4
けいゆう病院	3
茅ヶ崎市立病院	3
神奈川県立がんセンター	3
昭和大学藤が丘病院	3
慶應義塾大学病院	3
済生会平塚病院	3

紹介病院 各2件

東京都済生会中央病院・東京共済病院・湘南鎌倉総合病院・井上クリニック・横浜栄共済病院・東邦大学大森病院・東京大学医学部付属病院・茅ヶ崎市立病院 (順不同)

ホスピスケアを受けるために

ピースハウスは主に治療が困難ながんの患者さんとご家族に、ホスピス緩和ケアを提供する病院です。入院によるケアだけでなく、外来診療、また、訪問看護ステーション中井や各地域の訪問看護ステーションと協力して、在宅ホスピスケアも行っています。

ホスピス緩和ケアについてご理解いただくことと、患者さんの現在のご様子について事前に把握させていただくため、患者さんやご家族と面談の機会を設けております。面談時にご用意いただく医療情報がありますので、入院・外来診療・訪問診療をご希望の方は、まず電話でお問い合わせ下さい。

相談の窓口

ピースハウスでは、下記の相談についての窓口を設けています。

1. 当院への入院に関する相談
2. 当院での外来や訪問診療に関する相談
3. ホスピスに関する一般的な相談
4. ホスピスケアを受けながらの生活に関する相談

これらの相談窓口は、ソーシャルワーカーや看護師が担当しております。相談には予約が必要ですので、電話でご連絡ください。

電話 0465 - 81 - 8900 (代)



入院までの流れ

相談からケア開始までの流れは以下の通りです。

1. 電話による相談・外来予約
2. ホスピス相談・ホスピス外来
3. ホスピスケア判定会議
(ホスピススタッフがケアの開始に必要な事柄について検討)
4. ホスピスケアの開始
(外来・在宅ケア・入院ケアの予約)

なお、ピースハウスでは病名告知は必須条件ではありません。患者さんが治療が困難である病状であることを認識し、苦痛の緩和を目的とすることを望んでおられるのであれば、ピースハウスでのケアを受けることができます。

入院費用

医療費によっては健康保険が適用され、患者さんの負担額によっては、その一部が高額医療費制度により還付されます(申請が必要です)。

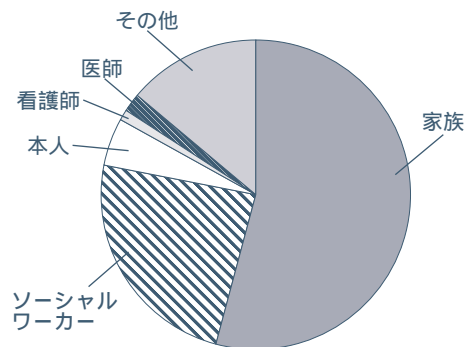
当院に関する情報はインターネット <http://ipc.or.jp> でもご覧いただけます。

2006年度の相談状況

(1) 相談件数：678件

(2) 相談者：

家 族：	363名	看 護 師：	9名
ソ ー シ ャ ル ワ ー カ ー：	160名	医 師：	15名
本 人：	36名	そ の 他：	95名



寄付報告 (2006年度収支報告)

施設内容とスタッフ

病床数・形態

承認緩和ケア病床 (個室13室, 4床室2室),
院外独立型 (2階建, 1階病棟, 2階ホスピ
ス教育研究所)

スタッフ

専任医師3名, 非常勤医師2名, 看護師28名,
看護助手4名, 病棟事務1名, 薬剤師2名,
MSW1名, チャプレン1名, 音楽療法師1
名, 管理栄養士2名, キッチンスタッフ6名,
事務員3名, ハウスキーパー6名, ボランティ
アコーディネーター1名, ボランティア95名,
運転スタッフ3名, 教育研究所4名

看護体制

プライマリーナーシング (受持ち制)

総面積

敷地面積: 5,790㎡ 建築面積: 1,989㎡
延床面積: 3,422㎡ 個室面積: 20~23㎡

差額ベッド代 個室以外は無料, 個室1日
18,900円, 24,150円 (税込み)

交通

小田急線秦野駅・JR東海道線二宮駅よりい
ずれも車で15分
2駅とホスピス連絡のための定時のシャトル
バス有り

収支の状況

2006年度の延入院患者数は, 6,377人, 1日当
り平均在院患者数は, 17.5人, 平均ベッド稼働率
は79.4%で, 前年より向上し, 収支も大きく改善
しました。

経常収入	342,134	千円
経常支出	328,510	
当期経常収支差額	13,624	
寄附金・会費収入	15,702	
当期収支差額	29,326	千円

寄附金・フレンドの会費

運営のためのご寄付	107件	11,292	千円
フレンドの会費	223件	4,410	
合計	330件	15,702	千円

ホスピスデイケアセンター建設のための募金

2006年9月~2007年3月 595件 16,922,776 円

ホスピスデイケアセンター (ピースハウスデイ
ケアセンター) の建築は, 2006年9月より開始,
2007年2月末に無事, 完成致しました。

本デイケアセンター建築のために募金を頂きました
多数の方々に対し心よりお礼申し上げますと共に
2007年8月末まで引き続き募金を行っております
ので今後のご支援もよろしくお願い申し上げます。

ピースハウスデイケアセンター建設収支

(2007年3月末現在)

収 入

日本財団助成金	36,100,000	円
ピースハウス将来計画のための募金取崩	26,104,994	
ホスピスデイケアセンター建設のための募金	16,922,776	
ピースハウスへの寄付	11,362,301	
合計 (A)	90,490,071	円

支 出 (消費税込み)

建築費	94,500,000	円
設計管理費等	7,400,000	
起工式, 仮設電気諸費用	795,500	
インフラ設備工事・電話 LAN 工事	1,558,200	
合計 (B)	104,253,700	円

収 支 (A) - (B) 13,763,629 円

ピースハウスをご支援いただくには 次のような方法があります。

運営のための寄付

ご寄付は随時受け付けています。
お振り込みは下記をお願いいたします。

郵便振替口座 00130 - 6 - 407939
加入者名 財)ライフプランニングセンター
ピース・ハウス募金口

ピースハウス友の会 (事務局にお問い合わせの上, お申
し込み下さい。事務局電話 03 - 3265 - 1907)

特定の金額を年会費として継続的にご寄付くださる方
の会です (年によってどの会員でも選べます)。

かとりあ会員 10万円以上 はなみずき会員 5万円
ばら会員 3万円 さくら会員 1万円



財団法人
ライフ・プランニング・センター
ピースハウスホスピス

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000 - 1
TEL 0465 - 81 - 8900 FAX 0465 - 81 - 5520
ホームページ <http://www7.airnet.ne.jp/peace-h/>